GUNBOH
群　萌

第213号　2023年4月27日
発行所 全国化学労働組合総連合
〒105-0021 東京都港区東新橋2－16－1
ルーシスビル402号室
TEL 03（6452）8806
FAX 03（6452）8807
発行責任者　瓜生　泰則
編　集　者　化学総連事務局
info@kagaku-s.com

～化学総連の政策活動って？～

政策局　政策局長　下田　篤

化学総連で政策活動を行っているのをご存じですか？ 今回は化学総連の政策活動の概要を紹介します

なぜ化学総連で政策活動を行うの？

化学業界は日本の基幹産業として重要な役割を担っています。化学総連は、化学産業の発展や地球規模の環境課題への挑戦、そして働く仲間の労働環境の整備のために、化学産業で働く労働者を代表する立場で、必要な税制、法規制、助成などを行政に意見する必要があるからです。

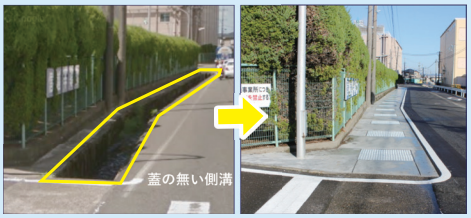
化学総連の政策活動スタンスは？

化学総連は企業の事業目標や単組の主体性を尊重しながら民主的に活動しているため、政策活動としても各加盟単組の事情を考慮し、組織として選挙支援や政治活動とは一定の距離感を維持しながら政策活動を推し進めています（選挙支援に関しては単組の支援活動を妨げているわけでなく、各単組に一任しています）。また、議員の方だけでなく省庁へも要望の説明・陳情を行っています。

どんな活動を行っているの？

パブリックコメント（＝政府からの意見募集）に意見したり、産業/労働施策への要望や意見を省庁や議員の方に向けて行っております。また、化学産業の課題や今後の方向性について、日本化学工業協会（日化協）や石油化学工業協会（石化協）との情報交換も行っています。

経済産業省への要望説明・情報交換



地連での政策活動例（側溝の蓋設置要望）

地連の政策活動ってなにしたらよいの？

地連(地方連絡会議)の主体的な活動により、それぞれの地域課題を解決していくことも大切です。「地域産業政策＝ハードルが高そう」というイメージではなく、まずは『地域貢献』として考え、身近な問題・地域問題の解決（例：道路の舗装や街灯の設置など）に取り組み、住んでいる地域をより暮らしやすくさせていくことが、地域で生産活動する化学会社の認知度向上と化学産業発展にも繋がります。

政策活動の内容・成果は？

現在、主に『化学産業の発展に資する施策について（税制など）』『気候変動問題におけるエネルギー施策について』『従業員が安心・安全かつ活き活きと働くための施策について』『日本の未来を担う人材育成に必要な施策について』の４つのカテゴリーで調査や要望検討を行っています。日本全体の政策に関わるので、化学総連の要望がどの程度反映されているか判断するのは難しいですが、国策として化学総連の要望と同じ方向性で進んでいるものもあります。

化学総連の要望内容に関する日本の動向

※化学総連要望は第45回定期大会議案書　産業政策資料より抜粋

1．化学産業の発展に資する施策について
石油化学製品製造向け原料に係る揮発油税、石油石炭税の本則非課税化　**⇒免税は継続。本則化については引き続き検討**
研究開発税制の継続・充実　**⇒控除上限の引き上げ（下限も引き下げてメリハリのある制度に）**

2．気候変動問題におけるエネルギー施策について
エネルギー転換に対する政策支援　**⇒化学産業へのGX投資（10年で約3兆円）、カーボンニュートラル促進税制継続**

3．従業員が安心・安全かつ活き活きと働くための施策について
テレワークの浸透　**⇒骨太の方針の人への投資部分に「良質なテレワークの促進」の記載あり**

4．日本の未来を担う人材育成に必要な施策について
少子化対策としての児童手当の見直し　**⇒異次元の少子化対策。与党内では2子・3子に対しての児童手当加算案もあり**

化学総連活動報告

【第46回幹部研修会】

日　　時	2023年1月19日（木）～20日（金）
場　　所	リーガロイヤルホテル小倉
参加人数	157名（web併用）

講演の様子

質問する加藤委員長
（三井化学労組）

質問する稲垣委員長
（DIC 労組）

開会挨拶する瓜生会長

講演する前田先生

質問する河村副会長

2つ目の特別講演では、ネッツトヨタ南国採用・共育担当 ビスタワークス研究所 伝え役 結城貴暁氏より「新時代の到来、人が輝く職場を創る」と題して講演いただきました。

ネッツトヨタ南国は過去に徹底的なマニュアル化や人材管理を行い社内競争させる文化であったことから、店舗スタッフの関係性は次第に悪くなり人の入れ替わりも激しく現地での人材確保や人材定着が難しかったようです。

過去の反省を踏まえ、「全社員を人生の勝利者に」の経営理念に基づく徹底した人材育成を実施され、スタッフ一人ひとりが家族のような仲間意識をもって、お互いが助け支えあう体制を構築したことで、働く環境が整えられスタッフの不安や戸惑いが減った取り組みをご紹介いただきました。

化学業界などの製造業における人材確保や人材定着の課題となっており、課題解決に向けて何を取り組んでいくのか考えさせられる講演でした。

政策局長基調講演では、化学総連の下田政策局長より「春季労使交渉について」と題して、2023年春季労使交渉に向けた化学総連としての取り組みの考え方や、世界・日本の各諸情勢、企業業績についてご説明いただき情報の共有化を図りました。

今回の研修会は、2つの特別講演と政策局長基調講演を実施しました。

1つ目の特別講演では、元外務省職員で脱炭素を専門にするエネルギー・アナリスト 前田雄大氏より「カーボンニュートラル時代を生き抜く化学産業のロードマップとは」と題して講演いただきました。

前例がない中で、カーボンニュートラルをいち早く取り組んでいる欧米のグローバル企業の取り組みとして、風力発電や太陽光発電に代表される再生可能エネルギーで使用電力を100％賄う取り組みをご紹介いただき、前田先生のご自宅を例として個人レベルで電気を「作って、溜めて、余ったらおすそ分け」を行う個人から地域へ還元する自律分散の取り組みが紹介されました。また、化学企業の脱炭素の取り組みとして、BASF社の取り組みなどを一例に、再生可能エネルギーのシェア拡大やヒートポンプを活用した蒸気の活用、既存設備の効率化等をご紹介いただきました。

本講演の内容が加盟単組におけるカーボンニュートラルの取り組みの参考となれば幸いです。

講演する結城氏

講演する下田政策局長

講師紹介する
藤村副会長

質問する山本氏
（AGC 労組）

閉会挨拶する
峯岸会長代理

会場の様子

【第103回調査担当者会議】

三井化学労働組合より労働条件基本台帳の改善に関する発議を行いました。続いて、住友ベークライト労働組合から闘争資金に関するオプション調査結果を報告いただきました。

休憩をはさみ、2022秋季労使交渉を実施した7単組よりその取り組み結果をご報告いただき、続いて2023春季労使交渉の検討状況について情報交換を行いました。

春季労使交渉のトピックスとしては以下の通りです。

開会挨拶する大熊副会長

＜賃金＞

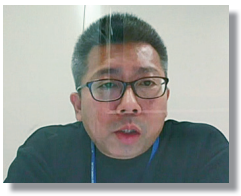
ベースアップの他、賃金改善に取り組む単組が非常に多いようです。

＜一時金＞

昨年より業績が下落傾向にある会社もあり、昨年の一時金と比較してstayや下落基調にあるようです。

＜その他要求事項等＞

総実労働時間の削減及び年間休日数の増加や副業制度の導入、カフェテリアプランの導入、積立休暇の廃止とライフサポート休暇の導入・諸手当見直し、生理休暇の拡充、定年延長などに取り組む単組があるようです。


基本台帳改善を発議する古場氏
（三井化学労組）

オプション調査報告を行う石川氏
（住友ベークライト労組）

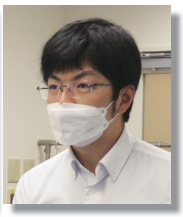
会議全体の様子

日　　時	2023年3月10日（金）		
場　　所	Web開催	参加人数	22名

【2022年度 第2回書記長・事務局長会議】

会場の様子

質問する石丸氏
（三洋化成工業労組）


質問する早川氏
（丸善石油化学労組）

質問する岡林氏
（積水化学労組）

講演される竹村先生

開会挨拶する
峯岸会長代理

日　　時	2023年3月17日（金）
場　　所	化学総連事務所＋ Webハイブリッド開催
参加人数	20名

前半は東京弁護士会の竹村和也先生をお招きし「近年の重要な法改正等について」と題してご講演をいただきました。主に高齢者雇用安定における70歳までの雇用確保義務や労働基準法における賃金のデジタル通貨払い、女性活躍推進法改正における男女の賃金の差異の公表義務などについて学びました。各加盟単組において実務を担われている書記長・事務局長の皆さんからの法対応への質問に対して竹村先生より丁寧にご回答いただきました。

後半は各加盟単組の業績連動型一時金に関する討議を行い、導入の経緯やその仕組みについて議論しました。2023年度より業績連動型一時金制度の導入を検討している単組もあり、導入のメリットやデメリットなど闊達な議論がなされました。

日本赤十字社への義援金贈呈

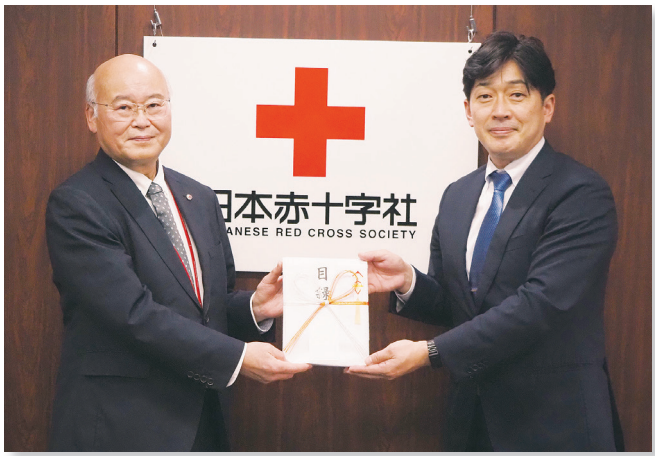
化学総連はこれまで自然災害等の支援として、内閣府に指定された激甚災害が発生した際、日本赤十字社を通して当該地域へ義援金の寄付を行っております。2022年は以下4件の激甚災害が発生しましたので、日本赤十字社の本社を直接訪問し義援金贈呈を行ないました。

被災地の方々の生活が一日でも早く元に戻られる一助となるよう本活動は引き続き推進していきたいと考えております。

- 令和四年三月福島県沖地震災害義援金
- 令和四年七月大雨災害義援金
- 令和四年八月十三日からの大雨災害義援金
- 令和四年台風十五号災害義援金

日　時　2023年2月21日（火）　**場　所**　日本赤十字社　本社（新橋）

参加者　日本赤十字社　パートナーシップ推進部 井上調整監、掛川氏
化学総連　瓜生会長、森事務局長、安福事務局次長



義援金を贈呈する瓜生会長（右）と受け取られる井上調整監（左）

書き損じはがきキャンペーン結果

22年12月16日～23年2月28日に実施した書き損じはがきキャンペーンの報告を行います。皆さんからいただいた寄付（未使用・書き損じはがき2,676枚、未使用切手259枚、使用済み切手9,500g）についてはハンガー・フリー・ワールドへ送付し換金した結果125,405円となりました。キャンペーンへのご理解・ご協力誠にありがとうございました。今回、担当者よりメッセージをいただきましたので紹介します。

国際協力NGOハンガー・フリー・ワールドの田中梨佳です。国内活動担当として、日本でのご支援の輪を広げること、そして食品の大量な輸入と廃棄などにより、世界の食料問題に影響を与える日本の食の仕組みも変えていくために活動しています。

さて、今年も『書き損じはがき回収キャンペーン』にご協力頂きまして、誠にありがとうございました。世界では十分な食料が生産されているのに、10人に1人が飢餓に直面しています。心も身体も健康に生きていくために必要な食料を自らの手で得られることは、人間のもっとも基本的な権利のひとつです。みなさまからいただいた物品は国内で換金し寄付金とさせていただき、新型コロナウイルスや紛争による食料価格の高騰で、その権利の実現が厳しさを増している地域において、子どもや妊産婦の栄養改善、収入向上プログラム、協同組合支援などに使わせていただきます。引き続きご支援をいただけますよう、よろしくお願い申しあげます。

特定非営利活動法人
ハンガー・フリー・ワールド
田中 梨佳